

安全問題討論会' 24  
委員会報告  
資料集

公益社団法人 土木学会  
安全問題研究委員会

## 目次

1. 土木工事安全小委員会	1
2. 地域安全小委員会	23

# 土木工事安全小委員会

# 建設現場の安全意識高揚の一助としての 広報資料の紹介

2024.12.16 安全問題討論会

須藤 英明

(公益社団法人 土木学会 安全問題研究委員会 土木工事安全小委員会)

# 土木工事安全小委員会 名簿

役職	氏名	所属
小委員長	須藤 英明	ものづくり大学
幹事長	吉川 直孝	(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
委員	赤尾 欽正	(株)大林組
委員	大幢 勝利	(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
委員	小柳 桂泉	(独)国際協力機構
委員	酒井暢彦	鹿島建設(株)
委員	豊澤 康男	(一社)仮設工業会
委員	長澤 小太郎	(独)国際協力機構
委員	東屋 克典	清水建設(株)
委員	広兼 道幸	関西大学
委員	前田 直志	(株)長大
委員	溝口 純也	大成建設(株)
委員	山中 憲行	前橋工科大学
オブザーバー	岩原 廣彦	香川大学

# 就業人口と労働災害統計

就業者数						
年	2019(R01)	2020(R02)	2021(R03)	2022(R04)	2023(R05)	5年平均
① 全産業(万人)	6,750	6,710	6,713	6,723	6,747	6,729
② 建設業(万人)	500	494	485	479	483	488
建設業占有率 ③=②/① (%)	7.4	7.4	7.2	7.1	7.2	7.3

(出典:総務省統計局HP「労働力調査 産業別就業者数(長期時系列表5)」)

死傷者数						
年	2019(R01)	2020(R02)	2021(R03)	2022(R04)	2023(R05)	5年平均
① 全産業(人)	125,611	131,156	130,586	132,355	135,371	131,016
② 建設業(人)	15,183	14,977	14,926	14,539	14,414	14,808
建設業占有率 ③=②/① (%)	12.1	11.4	11.4	11.0	10.6	11.3

(出典:厚生労働省HP「労働災害発生状況」)

死亡者数						
年	2019(R01)	2020(R02)	2021(R03)	2022(R04)	2023(R05)	5年平均
① 全産業(人)	845	802	778	774	755	791
② 建設業(人)	269	258	278	281	223	262
建設業占有率 ③=②/① (%)	31.8	32.2	35.7	36.3	29.5	33.1

(出典:厚生労働省HP「労働災害発生状況」)

建設業が占める比率

**建設現場には危険が潜む！**

就業者数	死傷者数	死亡者数							
7.3%	11.3%	33.1%	≒	1	:	1.5	:	4.5	3

# 話題提供内容

1. 建設工事安全かるたの普及展開
2. 災害の「型」に着目した建設工事安全ポスター
3. 危険環境の「対比型」(仮称)工事安全ポスター
4. その他 参考情報

建設工事安全かるた

あ  
あんぜん  
安全は  
まも  
守るとともに  
つく  
作るもの



公益社団法人 土木学会  
安全問題研究委員会 発行

©JSCE2023/Committee on Safety Problems  
このかるたの内容を複写または転載する場合には、必ず土木学会の許可を得てください。

建設工事安全かるた

か

かんでん かんづば ちゅうらい あせ すすび  
感電は 夏場に注意 汗・落着



■感電は汗をかく夏場の発生が多いが、  
薄着も要因のひとつ。  
空調服の着用など身支度を整えることが  
災害防止の基本。

公益社団法人 土木学会  
安全問題研究委員会 発行

©JSCE2023/Committee on Safety Problems  
このかるたの内容を複写または転載する場合には、必ず土木学会の許可を得てください。

読み札の例  
(ワンポイント  
コメント付記)

建設工事安全かるた

Motto KARUTA for Safety of Construction Works

こ

これくらい 思う油断で 知るヒヤリ



"This Will Be OK!" –  
You Could Get Cold Sweat Running  
Down With "HIYARI!"  
(\*sudden sense of dread)

Japan Society of Civil Engineers  
Committee on

©JSCE2023/Committee on Safety Problems  
Permission must be obtained from JSCE before copying or reproducing the contents of this KARUTA.

英訳版の例1  
(「ヒヤリ」等  
あえて日本語)

建設工事安全かるた

Motto KARUTA for Safety of Construction Works

す

すこ しょうらい その横着が ケガのもと  
少しくらい その横着が ケガのもと



"Come On, Better Hurry"  
"It Doesn't Matter" – "Don't Worry" –  
Cause of Injury!

Japan Society of Civil Engineers  
Committee on Safety Problems

©JSCE2023/Committee on Safety Problems  
Permission must be obtained from JSCE before copying or reproducing the contents of this KARUTA.

英訳版の例2  
(英詩に準じ「韻を踏む」)

# かるたの一例

土木工事安全小委員会

- 安全問題研究委員会 土木工事安全小委員会ホーム
- 小委員会の目的
- 小委員会の活動概要
- 委員会構成
- 議事録
- 安全問題研究委員会

ユーザログイン

ユーザ名 \*  
38226sudou

パスワード \*  
.....

ログイン状態を保持する  
(共用パソコンではチェックを外してください)

○ パスワードの再発行

ログイン

ホーム

**建設工事安全かるた**

投稿者：吉川 直幸 投稿日時：水, 2023-06-14 11:23

**「建設工事安全かるた」および「Motto KARUTA for Safety of Construction Works」について**

かるた遊びを通じて、多くの方々に建設工事の安全管理への関心を持っていただくために、さまざまな現場実務の場面に着目した「建設工事安全かるた」（44音分）を作成しました。

わかりやすい絵柄とひらがな表記の取り札に加え、読み札にその内容説明を付記することで、施工現場での活用に加え、将来の我が国の社会資本整備を担う子供達にも、かるた遊びの中で自然に建設仕事の安全な進め方に触れてもらうことを期待しています。

大人達にも、こうした部門に携わる技術者の安全衛生文化や意義を感じていただき、親子の絆を深める一助になれば望外の喜びと考えます。

日本語版の「建設工事安全かるた」とともに、「Motto KARUTA for Safety of Construction Works」として英語版も用意させていただいておりますので、「添付」と記載のある箇所からダウンロードしてご使用ください。

なお、「建設工事安全かるた」および「Motto KARUTA for Safety of Construction Works」の内容を複写または転載する場合には、必ず土木学会の許可を得てください。

**About 'KARUTA for Safety of Construction Works' and 'Motto KARUTA for Safety of Construction Works'.**

In order to encourage more people to take an interest in construction safety management through playing KARUTA, the 'KARUTA for Safety of Construction Works' (44 syllables) has been created with a focus on various practical on-site situations.

In addition to the easy-to-understand pictures and HIRAGANA cards, the cards are accompanied by explanations of their contents, so that in addition to their use at construction sites, children, who will be responsible for the future development of their social infrastructure, will naturally be exposed to safe construction work through playing KARUTA.

It would be a great pleasure if adults could also feel the health and safety culture and significance of the engineers involved in these sectors and help to strengthen the bond between parents and children.

In addition to the Japanese version of the 'KARUTA for Safety of Construction Works', we have also prepared an English version as 'Motto KARUTA for Safety of Construction Works', which you can download and use from the section marked "添付".

Please note that permission must be obtained from JSCE before copying or reproducing the contents of the 'KARUTA for Safety of Construction Works' and 'Motto KARUTA for Safety of Construction Works'.

○ 土木学会への問い合わせ先（複写または転載する場合）

[https://www.jsce.or.jp/contact/m\\_form.asp](https://www.jsce.or.jp/contact/m_form.asp) (日本語)

データを印刷し利用するのみであれば特段転載許可等の申請は必要ございません。

社内報等誌面に掲載する場合は転載許可が必要となります。

# (昨年報告) 現場での活用事例(1)



写真-1~3 朝礼ボードに  
デジタルサイネージで  
掲示

# (昨年報告) 現場での活用事例(2)



写真-4 喫煙所入口に掲示



写真-5 安全通路に掲示



写真-6 ミーティングに利用



9 写真-7 かるたを使用した安全勉強会



写真-8 かるたを最も多くとった方へ  
賞品授与



安全・衛生・教育・保険の総合実務誌

# 安全スタッフ

No.2451

特集 I

## 腰痛予防へ作業負荷を軽減

作業台の改良で中腰姿勢改善

ササキ

特集 II

## かるたで学ぶ建設工事の安全管理

注意点を身に付けるツールに

土木学会

ニュース

## 好事例増やす改善策示す

仮設工業会 新ヒヤリ報告で試行実施

労働災害動画 配信しています!

安全スタッフ電子版へログイン後→「各種サービス」  
→「動画で学ぶ労働災害事例」からご覧いただけます



6 / 1

2024

特集 II

安全管理

建設工事の

かるたで学ぶ

注意点を身に付ける  
ツールに

土木学会



(公社) 土木学会 (田中茂義会長) は、建設業の安全教育ツールとして「建設工事安全かるた」を刊行した。指差呼称・危険予知・声掛けなどの安全活動、重機との接触・つり荷の落下・感電などの安全管理上の注意点や現場の危険場面などを全44枚の札にまとめており、工事関係者への注意喚起や安全大会などでの教育に活用できる。英語翻訳版も製作し、外国人労働者の育成などにも幅広く使える教材となっている。(編集部)

イラスト入りで理解しやすく

土木学会は、建設業、教育・研究機関、行政機関など約3万9000人を会員に持つ学術団体で、公益事業として、土木工学に関する調査研究や講演、評価事業などを実施している。学会内には50を超える委員会を持ち、その一つである安全問題研究委員会土木工事安全小委員会では、労働災害や事故の低減を目的として、それらの実態把握、今後の安全対策のありかた、安全教育のありかた、健康で働きがいのある作業環境などについて議論を行っている。

今回、安全教材として製作した「建設工事安全かるた」は、日本で古くから親しまれている「かるた」を使って労働災害や事故防止のポイントを身に付けてもらおうと企画したもの。土木に限らず広く建設工事を対象にしており、現場の安全教育に活用できる内容となっている。

昨年12月に刊行されたもので、50音のひらがなからみ・ゑ・をを除いた全44枚。委員会メンバーから各文字の読み句を募り、意見交換を重ねて完成した。「か：感電は 夏場に注意 汗・薄着」「せ：巡回範囲 動く重機に 近づくな」「て：手を出すな 回転機械が 止まるまで」「に：

# かるた大会



IAC  
Int'l Civil  
Engineer Gr.

Japanese Language  
Salon  
KARUTA 大会



CEIS JISCE

15:00-18:00  
June 8, 2024

- ・開催日 2024年6月8日 (土)
- ・時間 : 15:00~18:00
- ・場所 : 土木学会 講堂

# 「建設工事安全かるた」土木学会ロビーに掲示



# 災害の「型」に着目した 建設工事安全ポスター 土木学会のサイトにアップ

入口

[土木学会 安全問題研究委員会 土木工事安全小委員会 \(jsce.or.jp\)](http://jsce.or.jp)

もっと進む

[災害の「型」に着目した建設工事安全ポスター | 土木学会 安全問題研究委員会 土木工事安全小委員会 \(jsce.or.jp\)](#)

土木工事安全小委員会

ホーム

**災害の「型」に着目した建設工事安全ポスター**

投稿者：須藤 英明 投稿日時：水, 2024-09-04 15:40

建設現場における災害防止への一助として「建設工事安全ポスター」を製作しました。現場での発生頻度や重篤度の高い災害の「型」に着目し、その防止のための勘所（かんどころ）に注意喚起のイラストを加えた構成です。「縦バージョン」と「横バージョン」を用意し、現場での掲示・サイネージ表示・研修資料などに幅広く利用いただけるよう工夫しましたので、第一線の現場を担う作業メンバーの方々をはじめ、皆様で、ぜひご活用ください。なお、このポスターの内容を複写または転載する場合には、必ず土木学会の許可を得てくださるようお願いいたします

※データを印刷し利用するのみであれば特段転載許可等の申請は必要ございません。誌面に掲載する場合は転載許可が必要となります。

[新着・お知らせ](#)

添付	サイズ
 災害防止のために／建設工事安全ポスター.docx	1.89 MB

- [安全問題研究委員会 土木工事安全小委員会ホーム](#)
- [小委員会の目的](#)
- [小委員会の活動概要](#)
- [委員会構成](#)
- [議事録](#)
- [安全問題研究委員会](#)

ユーザログイン

ユーザ名 \*

38226sudou

パスワード \*

.....

- ログイン状態を保持する  
(共用パソコンではチェックを外してください)

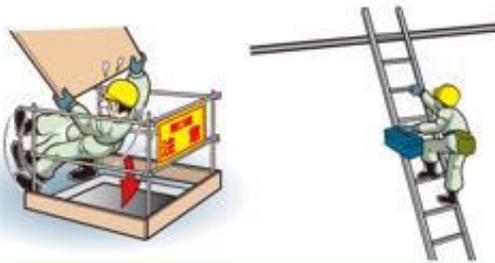
- [パスワードの再発行](#)

ログイン

# 〇〇災害防止のために

## 墜落・転落災害防止のために

開口部しっかり養生を！（覆い・囲い・手すり・幅木など）  
 足元の整理整頓を、日々、心がけよう！  
 「親綱スパンは10m以下、1スパンには一人」を守ろう！  
 重機の昇降時は「3点支持姿勢」と「靴底の土砂払い」徹底を！  
 墜落制止用器具は「しっかり装着、しっかり使おう」！  
 「ハシゴの昇降時」モノを持ってはなりません！  
 1メートルは「一命取る」言葉の重みを忘れずに！



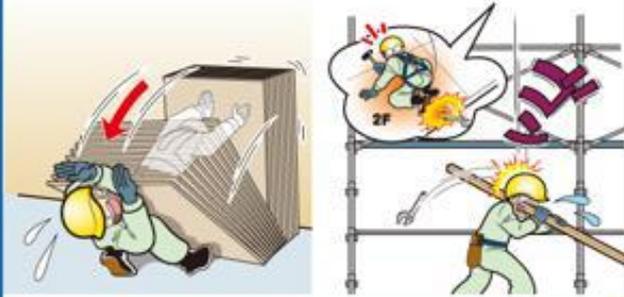
## 転倒災害防止のために

通路に不用意にモノを置かないこと！  
 「段差・暗がり・水・油」転倒原因を見逃さぬこと！  
 階段ステップにはストッパー設置を！  
 「冬場の凍結」敷鉄板上は特に滑る！  
 「重量物や長尺モノの持ち運び」バランス崩し転倒の危険あり



## 飛来・落下災害防止のために

つり荷のバランス「3-3-3」運動でしっかり確認を！  
 腰道具には「落下防止ヒモ」を付けよう！  
 「風で飛ぶモノはないか？」荒天前に点検と養生を！  
 「つり荷の下に入らない」クレーン作業の大原則！  
 「短期の仮設物」でもしっかり固定の意識で対処を！



## はさまれ・巻き込まれ災害防止のために

重機への「安易な接近厳禁、周囲に死角」多し！  
 やむなき接近はオベさんと「グッバー」で相互確認してから！  
 腰周りのベルトや工具ヒモの「巻き込まれ」にも注意！  
 「非常停止装置」必ず始業前作動確認！



## 切れ・こすれ災害防止のために

カッター使用時は皮手袋しっかり装着  
 カッター作業の「力の入れ過ぎ」は「太もも切創」の危険！  
 丸のこ手持ちでの切断作業は絶対やめること！  
 丸のこは回転させたまま、あるいはスイッチに手をかけたままの持ち運び・仮置き厳禁！  
 ベビーサンダー（グラインダー）への丸ノコ刃取付けは用途外・危険・法違反



## 番外編～細かな心掛け

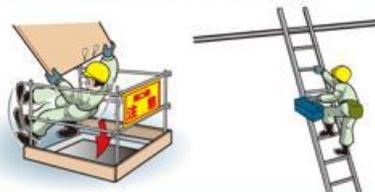
「誰かが直すだろう」は「誰も直さない」と紙一重！  
 「以前はこれで大丈夫だった」は禁句。現場は日々変化する！  
 目に見えない「電流」や「荷重（過重）」を軽く考えないこと！  
 「後世に残す」建設工事を安全に仕上げよう！



# タテ長バージョン

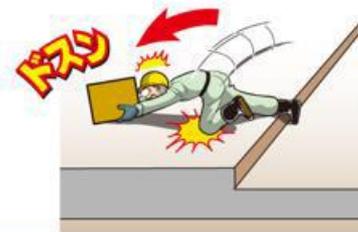
## 墜落・転落災害防止のために

開口部しっかり養生を！(覆い・囲い・手すり・幅木など)  
 足元の整理整頓を、日々、心がけよう！  
 「親綱スパンは10m以下、1スパンには一人」を守ろう！  
 重機の昇降時は「3点支持姿勢」と「靴底の土砂払い」徹底を！  
 墜落制止用器具は「しっかり装着、しっかり使おう」！  
 「ハシゴの昇降時」モノを持ってはなりません！  
 1メートルは「一命取る」言葉の重みを忘れずに！



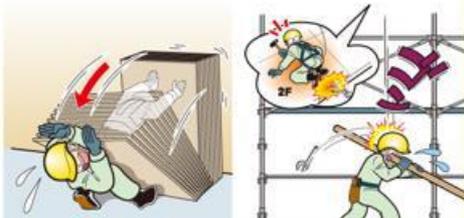
## 転倒災害防止のために

通路に不用意にモノを置かないこと！  
 「段差・暗がり・水・油」転倒原因を見逃さぬこと！  
 階段ステップにはストッパー設置を！  
 「冬場の凍結」敷鉄板上は特に滑る！  
 「重量物や長尺モノの持ち運び」バランス崩し転倒の危険あり



## 飛来・落下災害防止のために

つり荷のバランス「3-3-3」運動でしっかり確認を！  
 腰道具には「落下防止ヒモ」を付けよう！  
 「風で飛ぶモノはないか？」荒天前に点検と養生を！  
 「つり荷の下に入らない」クレーン作業の大原則！  
 「短期の仮設物」でもしっかり固定の意識で対処を！



## はさまれ・巻き込まれ災害防止のために

重機への「安易な接近厳禁、周囲に死角」多し！  
 やむなき接近はオペさんと「グッバー」で相互確認してから！  
 腰周りのベルトや工具ヒモの「巻き込まれ」にも注意！  
 「非常停止装置」必ず始業前作動確認！



## 切れ・こすれ災害防止のために

カッター使用時は皮手袋しっかり装着  
 カッター作業の「力の入れ過ぎ」は「太もも切創」の危険！  
 丸のこ手持ちでの切断作業は絶対やめること！  
 丸のこは回転させたまま、あるいはスイッチに手をかけたままの持ち運び・仮置き厳禁！  
 ベビーサンダー(グラインダー)への丸ノコ刃取付けは用途外・危険・法違反

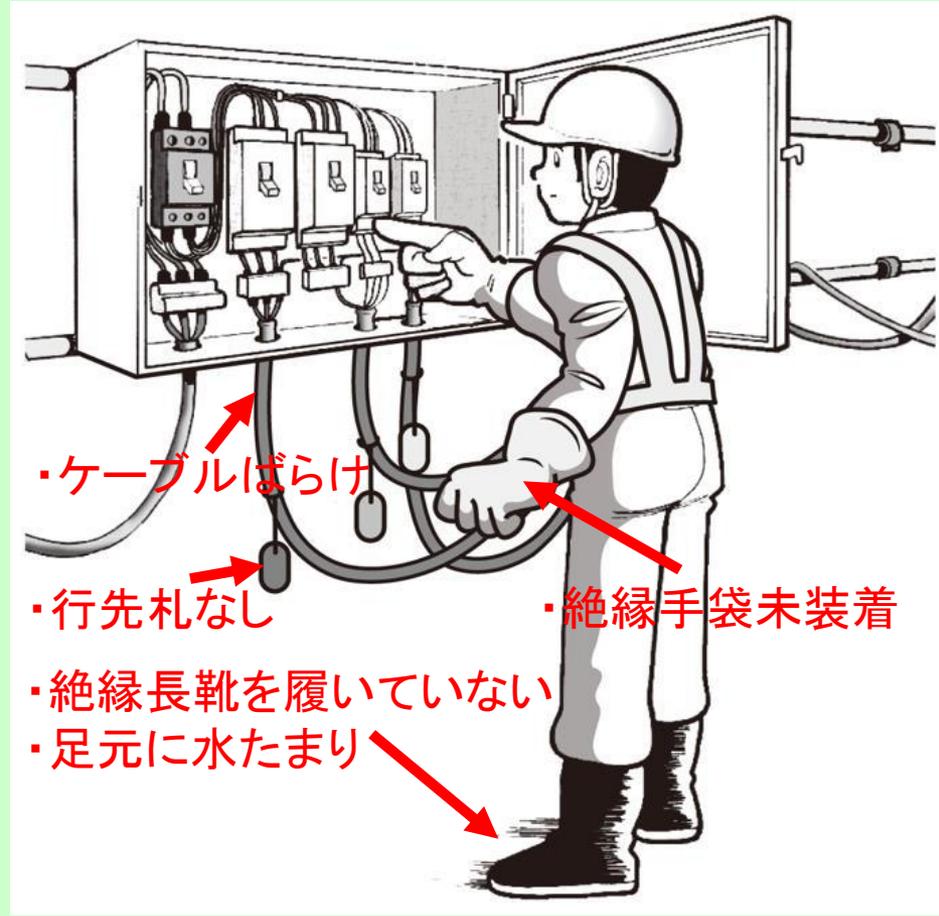
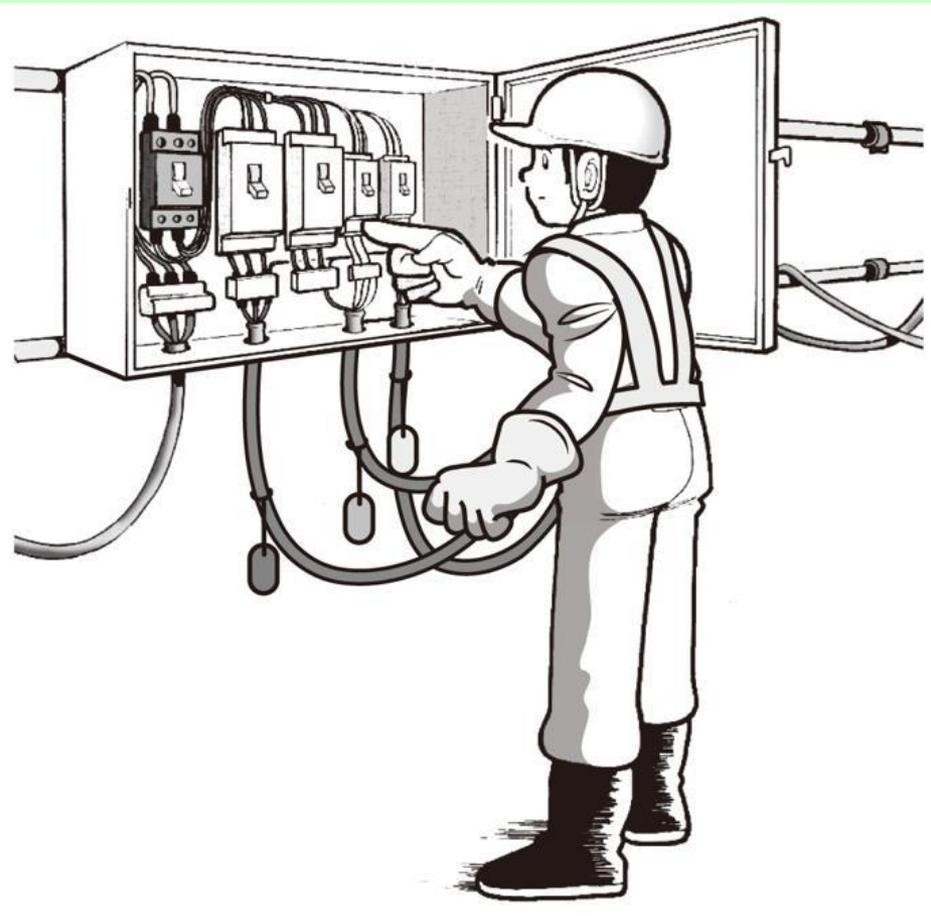


## 番外編～細かな心掛け

「誰かが直すだろう」は「誰も直さない」とこと紙一重！  
 「以前はこれで大丈夫だった」は禁句。現場は日々変化する！  
 目に見えない「電流」や「荷重(過重)」を軽く考えないこと！  
 「後世に残す」建設工事を安全に仕上げよう！



# 危険環境の「対比型」(仮称)工事安全ポスター 製作案 その1

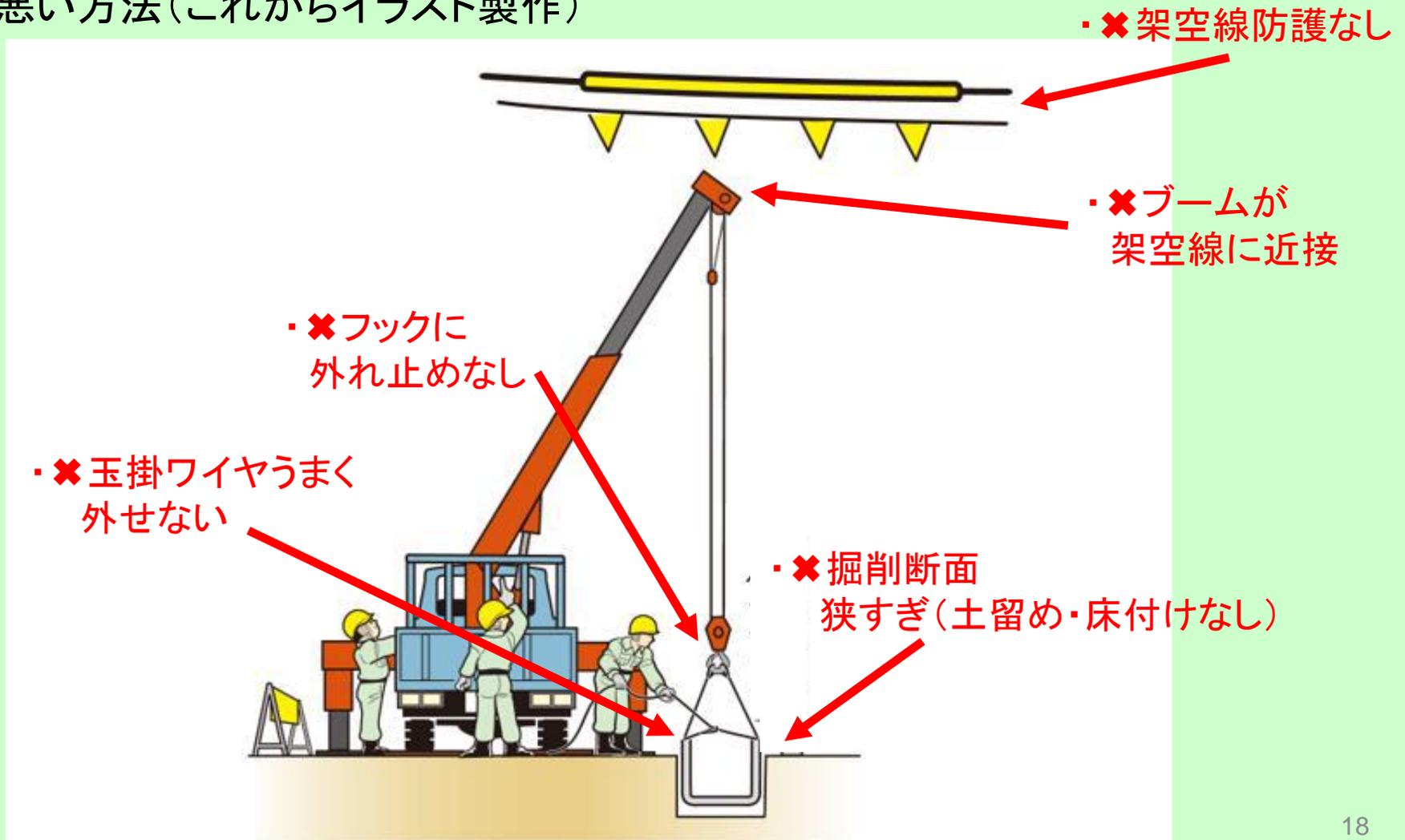


18 一例 分電盤の点検 良い方法

悪い方法(これからイラスト制作)

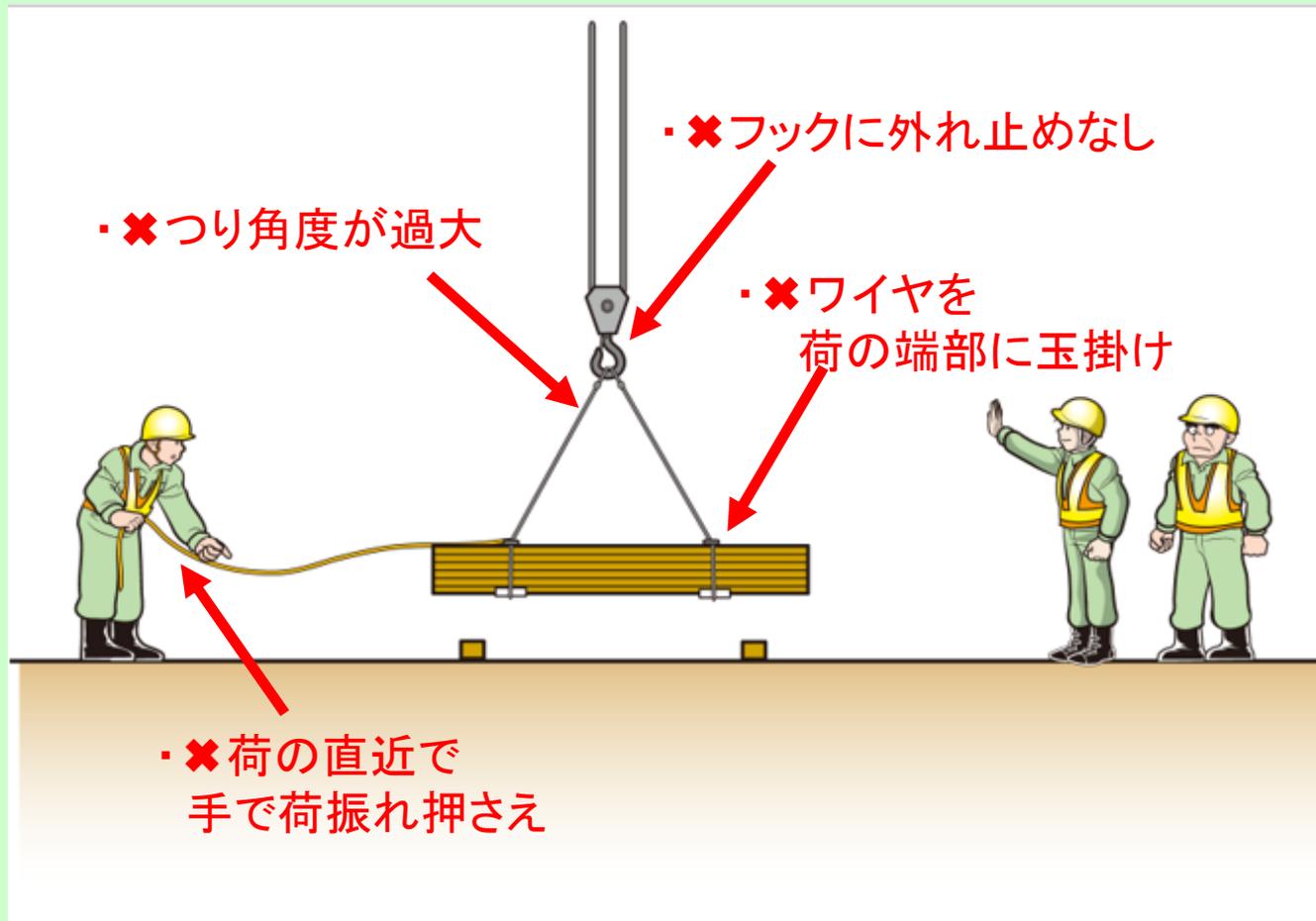
# 危険環境の「対比型」(仮称)工事安全ポスター 製作案 その2

✖ 悪い方法 (これからイラスト制作)



# 危険環境の「対比型」(仮称)工事安全ポスター 製作案 その3

✖悪い方法(これからイラスト製作)



# 参考情報

## (建マネ委員会と連携)

### 令和5年度重点研究課題

令和5年度 (3件)

研究題目名	推薦委員会	代表者
沿岸災害デジタルツインの創成に関する研究	海岸工学委員会	越村俊一
<u>建設分野におけるパンデミック危機対応の検証及び未来への備えに関する検討</u>	建設マネジメント委員会	大西正光
Society5.0 に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究	複合構造委員会	牧 剛史

#### 4.2 対面と非接触のバランス (価値基準)

対面と非接触という観点で、普段の業務は下記の三つに分類できると考えられる。

1. 平時も有事も、対面で実施すべき業務
2. 平時は対面で実施すべきだが、有事は非接触で実施できる業務
3. 平時も有事も、非接触で実施できる業務

土木は実空間にモノを作っていく仕事である。したがって、人が実空間で判断を要する業務

(いわゆる現場仕事) に関しては、基本的に「1. 平時も有事も、対面で実施すべき業務」

に分類されると考える。例えば、以下に示す業務が挙げられる。

- (1) 安全管理 : 「不安全な状態や行動」を把握指摘して改善を指導、異常気象 (強風雨) に備えた仮設物点検・養生確認、地震発生時の各部点検 等
- (2) 品質管理・施工管理 : 鉄筋組立て状態確認 (結束線がかぶりを侵していないか等の細目も重要)、型枠支保工の検査、生コンの受入れ検査、コンクリートの打込み (圧送ホース筒先操作) ・締固め状態 (バイブレータの操作・振動時間) の確認等の「勘所」
- (3) 近隣対応 : 工事説明、苦情対応 (騒音・振動・臭気・通風阻害・通行支障・埃) 等

## 報告書一部抜粋

・現場仕事は平時も有事も「対面」

・ICT活用や自動運転技術等で「非接触化」も進歩の兆し

FIN.

ご清聴  
ありがとうございました。

建設工事安全かるた



ルールとは  
じぶん なかま  
自分と仲間を  
まも  
守るもの



公益社団法人 土木学会  
安全問題研究委員会 発行

©JSCE2023/Committee on Safety Problems  
このかるたの内容を複写または転載する場合には、必ず土木学会の許可を得てください。

# 地域安全小委員会

# 令和6年度安全問題討論会

---

## 公益社団法人 土木学会 安全問題研究委員会・地域安全小委員会 委員会活動報告書

令和6年11月20日（水）

# 1 地域安全小委員会について

- ・少子高齢化社会のさらなる進展、東京圏や都市部への人口集中、地方自治体の財政難、老朽化インフラの増加等の問題を抱える中、災害発生後もいかにして市民の安全で安心な生活を維持、継続していくかが課題
- ・土木学会として、市民のための社会・経済活動を支える基盤づくりを進めていくうえで、このような課題への対応策を提示することが大きな役割の1つ

今後発生が危惧される大規模災害への対応しうるこれからの社会における地域のレジリエンスの在り方について、土木技術者と社会や市民との対話という視点を考慮しながら、調査研究を進める

- ・市民の良質な生活空間を継続して確保するための在り方・方向性
- ・地方、都市部それぞれの継続的なリスクコミュニケーションの在り方
- ・地域の災害リスクに対する市民の許容性とそれに係る公的、社会的支援等

## 2 これまでの活動経過

- (1) 多様な視点での地域レジリエンスに係る考え方の把握を目的に様々な分野の有識者や実務者との意見交換を実施
- (2) 地域コミュニティ継続に係る取組事例の把握を目的に基礎自治体等へのヒアリング調査を実施

(1) 意見交換実施概要 ※各専門分野での取組について委員会内でご講演頂いた後、意見交換を実施

① 倉敷市真備町での西日本豪雨被害時の実体験ならびにその後の活動

(サツキPROJECT代表 津田 由起子氏)

② 「水害地域学習研究会」の取組 ～水害に関する「地域の学び」を支援する技術～

(長岡技術科学大学工学部環境社会基盤系 准教授 松田 曜子氏)

③ (株)HITOTOWA取組事例及び書籍「ネイバーフットデザイン」の概要紹介

(株)HITOTOWA シニアディレクター 高村 和明氏)

④ 農山村の実態と再生課題

(明治大学農学部専任教授 小田切 徳美氏)

⑤ 復興とコミュニティ

(東北大学災害科学国際研究所教授 姥浦 道生氏)

⑥ 東日本大震災におけるURの復興まちづくり支援 ～ハードとソフトの両面から～

(独立行政法人 都市再生機構 震災復興支援室長 山本 直氏)

(2) 基礎自治体等ヒアリング調査実施概要

・鳥取県 智頭町役場:「1/0村おこし運動」「百人委員会」等の取組紹介

・宮城県 女川町 復興に係る取組等についてヒアリング

・宮城県 石巻市 (株)街づくりまんぼう 復興まちづくり等についてヒアリング

### 3 有識者や実務者との意見交換結果まとめ

- ・ポピュレーション・アプローチによって社会的要因を探求し、集団を対象とした働きかけ
- ・隣人を知るなど繋がりがあれば臨機応変に動ける→地域の人との連携が重要
- ・地域住民の風通しの良さ、顔が見える関係性の構築が地域レジリエンスにつながる
- ・地域のコミュニティが形成されている地域は、災害時に強い
- ・防災に限らず多様な社会課題の担い手との連携が重要
- ・標準化は否定しないが、どこでも通用するレシピは存在しない  
→標準化と土着とのバランス
- ・個人、ライフスタイルの多様性を扱える手法が必要
- ・次の世代にも支持される暮らし→内発性、多様性、革新性
- ・平時から地域の課題や在り方を考える場や組織
- ・地域に深く関わっていく人材の発掘
- ・地域の危機感に係る住民と行政との共有、住民と行政との良好な関係性構築

地域レジリエンスとは・・・

普段の何気ない生活様式、コミュニティ、生活環境、ローカルルール、多様性、地域特異性の維持継続、地域の主導的な人材発掘等  
⇒これらを高めていくことが必要

# 4 基礎自治体等へのヒアリング調査結果概要①

## 鳥取県智頭町企画課ヒアリング調査概要

### 【1/0村おこし運動について】

- ・集落単位で原則全戸へ会費負担を依頼し、地区振興協議会を設立しその地域ごとに支援(地縁型支援)
- ・自分たちの村は、自分たちで守るという意識を醸成させることが大きな狙い
- ・当該運動の活動の柱は、交流・情報(ホームページ制作等)、住民自治(清掃活動等)、地域経営(アウトプットの重要性、収益確保)の3つ



### 【「百人委員会」について】

- ・居住地によらず、同じ目的を持った人達が集まって実施する取組を支援(テーマ型支援)
- ・住民のアイデアを実現していくことが重要ということで生まれた施策
- ・住民が身近で関心の高い課題を話し合い、その解決のため政策を行政に提案し実行していく組織で、商工観光部会、生活環境部会、健康部会、林業部会、特産農業部会、教育文化部会、獣害対策部会の7つの部会で構成(事務局として行政職員出席)
- ・提案内容を審議し議決を経て予算化し、その後に交付申請してもらい事業化
  - 住民達でやらないといけないことを前提に意見交換した企画を提案してもらうため、基本的に庁内の幹部職員会議では却下されていない
  - 長期間継続している理由の1つは、住民と行政の関係性が近いことが考えられる

### 【その他】

- ・人口減少に係る危機感を持った方が住民の中におり、その方が行政を巻き込み進めてきたことが、住民が自主的に動くようになったきっかけだと考えられる
- ・行政職員が集落に入り、様々な人と知り合い関係性を構築することが役立つ
- ・行政ではなく、地域のキーマンが声がけすると住民が集まってくる

## 4 基礎自治体等へのヒアリング調査結果概要②

### 宮城県女川町ヒアリング調査概要

#### 【女川町概要】

- ・人口：約6,000人
- ・世帯数：約3,000世帯
- ・面積：65.35km<sup>2</sup>
- ・東日本大震災の主な被害：町内の住宅7割流失、人口のおよそ1割の方が犠牲

#### 【ヒアリング結果概要】

- ・商店街をどうしていこうという課題に対して検討している最中に災害に
- ・復興に当たっては、民間事業者が先行的にまちづくり組織を構築し、その組織に行政が入っていった
- ・まちの特色としてもともと地域と民間事業者とのつながりが強かった
- ・もともと、まちに対するマインドが高い
- ・地縁・血縁関係のつながりが強いことなどが地域コミュニティの特徴
- ・まちの人は、新しい民間の事業者の人が来てもを避けることはない
- ・未来の世代を育てている30代、40代の考えを積極的に聞く。60代以上は、口は出さないけど、お金を出す、自分達は一歩後ろで控えているからやってみろという思い。
- ・復興祭の中で、西宮神社と協定(福男)を結び、避難路まで走ることを毎年実施(伝承)  
→行政ではなく、民間事業者からの発案



# 4 基礎自治体等へのヒアリング調査結果概要③

## 宮城県石巻市(株)街づくりまんぼうヒアリング調査概要

### 【石巻市概要】

- ・人口:約135,000人
- ・世帯数:約62,000戸
- ・面積:554.55km<sup>2</sup>
- ・東日本大震災の主な被害:  
死者(関連死含む)行方不明者約4,000人、  
建物被害56,708棟

### 【(株)街づくりまんぼうについて】

- ・石巻市、市民が策定した「石巻市中心市街地活性化基本計画」のコンセプト「浪漫商都ルネッサンス＝マンガ的発想が人を呼ぶ街づくり」に基づき、「石ノ森萬画館」を中核施設とした企画調整・事業実施型のタウンマネジメント機関を立ち上げ、平成13年2月に街づくり会社として設立

### 【ヒアリング結果概要】

- ・まちづくりの部門が震災後に大きくなった
- ・震災前の漫画によるコミュニティが震災復興にかなり貢献したと感じている
- ・復興の最初は、50代や60代前半の方々が集まり、話し合い→絵をまとめて→行政に提案するというサイクルを何回も行った
- ・商業事業者の想いを実現させていくイメージが復興につながっていく



## 5 アンケート調査①

### 【アンケート調査の考え方と目的】

- ・これまでの被災地域における復興に係る特徴としては下記①～⑥のような項目が考えられる。
  - ・すなわち①～⑥の項目が備わった地域は復興力が高いと推測されるとともに、既往文献※で定義されている地域レジリエンスの構成要素(Adaptive(適応力)、Robust(堅牢性)、Redundant(冗長性)、Flexible(柔軟性)、Resourceful(資源力)、Inclusive(包括性)、Integrated(統合性))等に一定の関連性があると考えられる。
- ①意思決定力:物事を決める力
  - ②プロジェクト推進力:決めたことをやる力
  - ③組織形成力:必要に応じてチームビルディングできる力
  - ④人材登用力:適材を登用、世代交代を良しとする
  - ⑤情報共有力:情報伝達、日常のコミュニケーションの濃密さ
  - ⑥受援力:外部の支援を受け止める、活用する力
- ・以上から、地域レジリエンスにおける一定の在り方を見出すため、レジリエンスの構成要素と復興の特徴の関連性を把握することを目的に、複数の地域において上記①～⑥の項目における地域住民や自治体職員の意識の度合いを調査する。

### ※既往参考文献

- ・レジリエントな都市、国土交通省、2016年6月
- ・コミュニティ・レジリエンスの考え方に基づくコミュニティ継続計画(CCP)策定手法の提案、  
畠山ほか、2013、土木学会論文集

## 5 アンケート調査②

### 【復興に係る特徴を踏まえた調査設問内容の設定に係る考え方】

・前頁に示した復興に係る6つの項目ごとに、これまで実施してきた有識者や実務者との意見交換及び、基礎自治体ヒアリング結果から得られた特徴を整理(下表参照)。

⇒特徴は、以下の4つのカテゴリで整理

- 有識者・実務者意見交換で話題提供され、大規模な水害被害を受けた真備町
- 基礎自治体ヒアリングを実施した鳥取県智頭町、宮城県女川町、石巻市
- その他、有識者・実務者意見交換での意見

- ・整理した復興に係るカテゴリごとの特徴を踏まえ、地域住民向けの設問内容を設定
- ・地域住民向けの設問内容を参考に、自治体職員向けの設問内容を設定
- ・設問は、答えやすいよう基本的に一人称での問いとし、どの設問も共通した5つの選択肢(とてもあてはまる・やや当てはまる・どちらともいえない・あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)による回答方法とした。

復興に係る特徴	倉敷市 真備町	鳥取県 智頭町	宮城県 女川町	石巻市 <small>(榊街づくり まんぼう)</small>	その他 有識者等意見
意思決定力:物事を決める力	...		...	...	
プロジェクト推進力:決めたことをやる力	...	...			...
組織形成力:必要に応じてチームビルディングできる力		...	...	...	
人材登用力:適材を登用、世代交代を良しとする	...	...	...		...
情報共有力:情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ			...	...	...
受援力:外部の支援を受け止める、活用する力	...	...		...	...

## 5 アンケート調査③（復興に係る主な特徴）

### ▶ 有識者・実務者との意見交換から得られた復興に係る特徴：倉敷市真備町

意思決定力： 物事を決める力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日ごろからの地域交流の必要性を気づき様々な活動をはじめ（認知症理解啓発、サロン活動、子ども達の居場所、住まいの勉強）→さつきPROJECTのはじまり</li><li>・介護事業者としてこれまで経験してきた地域の課題が礎となり、ブレることのない信念が貫かれている。</li></ul>
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・集まる顔ぶれによって、進め方を考えることがコツ。紙をうめることが目的ではなく、意見交換する場を共有し、お互いの連絡先を交換できれば大成功である。</li><li>・スピード感をもって対応することと、時間をかけてじっくり対応すべきことを見極める必要がある。</li></ul>
組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・国交省が地域に入り込んで活動していた。行政の日々の取り組みがあるから住民との関係性が良くなっている（話を聞く、共感しようとする姿勢が重要）</li><li>・さつきPROJECTの想いの共感者は誰でも参加できるようなやわらかなチームングを行っている。</li></ul>
人材登用力： 適材を登用、世代交代を 良しとする	<ul style="list-style-type: none"><li>・さつきPROJECTの想いの共感者は誰でも参加できるようなやわらかなチームングを行っている。</li></ul>
情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケー ションの濃密さ	<ul style="list-style-type: none"><li>・日ごろからの地域交流の必要性を気づき様々な活動をはじめ</li><li>・クラウドファンディングで情報発信を行い支援を受けた</li><li>・この真備の取組をモデルに全国へ発信したい</li><li>・地震時など有事の際は、近所の畑で野菜を調達させてほしいと話をしている。地域の人との連携が重要。</li><li>・代表の津田さんの目線は常に外を向いている。</li></ul>
受援力： 外部の支援を受け止める、 活用する力	<ul style="list-style-type: none"><li>・クラウドファンディングで情報発信を行い支援を受けた</li><li>・地域の方に相談し、沈んだ倉庫を紹介してもらった。</li><li>・NGO等様々な団体からの支援を受けている。</li></ul>

## 5 アンケート調査④（復興に係る主な特徴）

### ▶ 自治体ヒアリング結果から得られた復興に係る主な特徴：鳥取県智頭町

意思決定力： 物事を決める力	<ul style="list-style-type: none"><li>・心理的安全性：「百人委員会」は提案したら自分達でやらないといけないという前提・・・企画提案してもらうので、基本的に幹部職員会議では却下されない。</li><li>・中学生の提案で、いきなり30万が承認されたことも</li></ul>
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・リーダーシップ：元町長（元郵便局長）の存在</li><li>・住民主導：住民の思いを行政、議会が受容して実現（提案内容を絞って決めたのち、金額面を計画立案し、町長含めた幹部職参画の企画提案会でやりたい思いをぶつける）</li></ul>
組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・集落単位で地区振興協議会を設立（「1/0村おこし運動」）</li><li>・リーダーシップ、危機意識、巻き込み力：人口減少に危機意識を持っていた元郵便局長と、もう一人の二人をきっかけに行政や住民も巻き込んだところはかなり貢献度が高いと考える。</li></ul>
人材登用力： 適材を登用、世代交代を 良しとする	<ul style="list-style-type: none"><li>・ネットワーク志向：「知恵がないなら借りればいい」。住民のアイデアを実現していくことが重要ということで生まれた。（百人委員会）</li><li>・世代交代：中学生の提案で、いきなり30万が承認されたことも</li></ul>
情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケー ションの濃密さ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホスピタリティ</li><li>・プッシュ型行政：地区協議会で職員が副会長や事務局長レベルで入るようにしている。かつては若い職員が一人ずつ集落に入り、集落の振興協議会に張り付くようなことはやっていた。</li><li>・組織内外の連携：例えば、健康部会が何かをしたときに、商工観光部会でも何かあると、ここは一緒の時期にやろうなどといった連携をしている。</li><li>・行政だけでなく、住民に寄り添いながら、住民と行政が連携しながらという姿勢</li><li>・住民と行政がすごい近い。行政には10年以上の担当者もいる。</li></ul>
受援力： 外部の支援を受け止める、 活用する力	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域外との連携：自治体間で意見交換や連携</li><li>・企業・都市部との連携：企業研修が近年増えてきている。</li><li>・若手職員の研修への派遣は全庁的に行っている。</li></ul>

## 5 アンケート調査⑤（復興に係る主な特徴）

### 【自治体ヒアリング結果から得られた復興に係る主な特徴：宮城県女川町】

意思決定力： 物事を決める力	<ul style="list-style-type: none"><li>・民間、住民がまちづくりに入るという機会がかなり多かった。</li><li>・復興の計画を立てる前から、住民とワーキングを開き、学識者が意見を画に描いて表現するという形で進めてきたことで自分達の町を作り上げていくという感覚がかなり強かった。</li></ul>
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・中心商業施設に関しては、町長が決断した内容に基づき進めていく形になっていた。住民の方を含め、皆が見ている前で決まる、地域の皆様で進めていった。</li><li>・住民の意見を吸い上げる民間事業者のワーキングに学識が参加し、その場でスケッチを描いて具体的な画に落として行くという流れが確立。</li></ul>
組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・幅広い業種のトップが集まった女川町復興連絡協議会(FRK)という民間の任意団体を行政側から要請したのではなく、民間事業者側で設立。</li></ul>
人材登用力： 適材を登用、世代交代を 良しとする	<ul style="list-style-type: none"><li>・未来の世代を育てている30代、40代の考えを積極的に聞く。60代以上は、口は出さないけど、お金を出す、文句を言われたら弾除けになる、自分達は一步後ろで控えているからやってみろという思い。</li></ul>
情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケー ションの濃密さ	<ul style="list-style-type: none"><li>・合意形成の過程のオープン化</li><li>・住民説明会を200回程度開催。ほぼ全て町長が説明。町長自身が住民の近いところに行つて進めていたため、意見しない住民でも、自分の意見が反映されているような感覚になった。</li><li>・説明会は、避難住民に対しても避難先に会場を設け、直接意見がしやすいように実施。</li><li>・特にデザインに関しては、意思決定プロセスが大きい場で行われていた。</li><li>・行政区が一から立ち上がった地区も含め、区長が中心となりコミュニティを醸成。</li><li>・地縁・血縁関係のつながりが強い。</li></ul>
受援力： 外部の支援を受け止める、 活用する力	<ul style="list-style-type: none"><li>・平成25年9月から令和2年まで、学識者3名と町長の全4名の委員という体制に、ゼネコンやUR都市機構、コンサルタントが入り、マスコミや住民等も参加可能なデザイン会議を5回開催。</li><li>・復興は、民間事業者が先行的にまちづくり組織を構築、その組織に行政が入っていった。</li></ul>

## 5 アンケート調査⑥（復興に係る主な特徴）

### 【自治体ヒアリング結果から得られた復興に係る主な特徴：石巻市（株）街づくりまんぼう】

<p>意思決定力： 物事を決める力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街のまちづくりについて中心市街地の活性化も含めた復興計画を地域の様々な方々と一緒に作成。</li> <li>・商店街の方々と一緒に、広場や堤防などにおける様々なイベントの企画、コラボグッズの商品開発、空地を活用したチャレンジショップといったことも行っている。</li> </ul>
<p>プロジェクト推進力： 決めたことをやる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街のまちづくりについて中心市街地の活性化も含めた復興計画を地域の様々な方々と一緒に作成。</li> <li>・地元の方々が主体でイベント企画してもらえるようにするための募集要項を作成し、発信。</li> </ul>
<p>組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街づくりまんぼうのまちづくりの部門が復興事業などを行っている。組織は震災後に特に大きくなった。</li> <li>・「まんぼう」が事務局の役割を果たしつつ、「まちなか復興会議」として、商業者、まちづくり会社等で組織され、また、地元商店主、行政が入り、復興計画を作成。</li> </ul>
<p>人材登用力： 適材を登用、世代交代を 良しとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街づくりまんぼうは、他の事業者と共に取組み、ビジョンを作る時に新住民を主体に検討</li> <li>・地元商業者、行政、専門家が一体となって入り、いろいろな検討を行った。</li> </ul>
<p>情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケー ションの濃密さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災翌日から商店街の方々が自主的に中心部に集まり情報共有。これが復興まちづくりについて話し合うきっかけとなった。</li> </ul>
<p>受援力： 外部の支援を受け止める、 活用する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区画整理事業や、堤防の整備高さの決定等に当たっては、大学の先生などに入っただき検討。</li> <li>・1ターンやUターンで来た人などを活用して屋台村をオープン。</li> <li>・国土交通省の事務所や石巻市の方と密に連携を図りながら、かわまちづくり計画を進めている。</li> <li>・外の人たちの役割も重要であった。地元商業者、行政、専門家が一体となって入り、いろいろな検討を行った。</li> </ul>

## 5 アンケート調査⑦（復興に係る主な特徴）

### 【有識者・実務者との意見交換から得られた復興に係る主な特徴：その他の意見】

<p>意思決定力： 物事を決める力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつての水害の経験を聞いて、若い人に伝えるという取り組みも実施</li> <li>・住民の情報取得ハードルが下がり、学習を促進させる効果もある：「我がこと化」</li> <li>・中立な立場の第三者の存在が重要だった</li> <li>・平時から地域自治や地域のマネジメンの発展を進めていく重要性を認識</li> <li>・行政と住民の間に第三者が入り、お互いが共通のゴールを目指すようにしていくことが重要</li> <li>・被災が起きた場合に、町をどうしていくかということを住民とある程度議論を進めておくことが必要</li> </ul>
<p>プロジェクト推進力： 決めたことをやる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首長の強力なリーダーシップ(和歌山の事例)や公民連携による人材の発掘も考えられる。</li> <li>・地方公共団体内の体制指揮命令系統の構築というようなことも大事(全国の自治体からの技術者の応援をどう配置し、効率的に回すマネジメン等)</li> </ul>
<p>組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に限らず多様な社会課題の担い手との連携が重要</li> <li>・直接的に自分の利益につながらないことであっても、皆が行動学習を続けることで地域の防災や安全につながる視点を社会全体で共有することが必要</li> <li>・平時から地域の課題や在り方を考える場や組織が必要</li> </ul>
<p>人材登用力： 適材を登用、世代交代を良しとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の世代にも支持される暮らしが生まれ出しえるかを追求することが必要</li> <li>・多様なプレイヤーの交錯、多様な人材のごちゃまぜの場をつくることが重要</li> <li>・地域に深く関わっていく人材の発掘が重要である。場合によっては首長の強力なリーダーシップや公民連携による人材の発掘も考えられる。</li> </ul>
<p>情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブレコーダーの浸水データ、VR技術などを活用して、ヒヤリハット経験を共有</li> <li>・地縁の有無が生死にかかわる</li> <li>・単にイベントで皆が盛り上がるというだけでなく、コミュニケーションが広がることで防災や防犯などの困りごとの解決につながる</li> <li>・住民同士のチャットを作成するなど、オンライン活用を積極的に推進</li> <li>・コミュニティが街やマンションにあって、必要な場合にアクセスできることが重要</li> <li>・顔が見える関係性があり、そういう風通しの良いところがあるから大震災の時の助け合いもできる。</li> </ul>
<p>受援力： 外部の支援を受け止める、活用する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係人口の多さと多様性(無関係人口と移住の間の多様性)に注目することが必要</li> <li>・地域継続には多様なプレイヤーや人材が交錯(地域住民+RMO、移住者、関係人口、民間企業)できる場づくりが必要であり、人口減だが地域は元気という状況が重要</li> <li>・外部機関の専門家と平時から連絡できる体制の構築</li> </ul>

## 5 アンケート調査⑧（復興に係る特徴まとめ i）

### 【意見交換やヒアリング調査結果から得られた復興に係る特徴のまとめ i（キーワード）】

意思決定力： 物事を決める力	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまで経験してきた地域の課題が礎となり、ブレることのない信念</li><li>・（地域が）自分達でやらないといけないという前提</li><li>・自分達の町を作り上げていくという感覚</li><li>・復興計画を地域の様々な方々と一緒に作成</li><li>・住民の情報取得ハードルが下がり、学習を促進させる</li><li>・中立な立場の第三者の存在が重要</li><li>・行政と住民の間に第三者が入り、お互いが共通のゴールを目指す</li><li>・平時から地域自治や地域のマネジメントの発展を進めていく重要性</li><li>・町をどうしていくかということ住民とある程度議論を進めておく</li></ul>
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・意見交換する場の共有</li><li>・スピード感をもって対応する、時間をかけて見極める必要</li><li>・リーダーシップ</li><li>・住民の思いを行政、議会が受容して実現、ここではやりたい思いをぶつける（住民主導：住民の強い思い）</li><li>・住民の意見をその場でスケッチを描いて具体的な画に落として行く（イメージの具体化と共有、住民の意見の吸い上げ）</li><li>・地元の方々が主体でイベント企画してもらえようとするための募集要項を作成（様々な人と協働作業、地域の主体での企画、ルールを作成、発信）</li><li>・地方公共団体内の体制指揮命令系統の構築、効率的に回すマネジメント</li></ul>

## 5 アンケート調査⑨（復興に係る特徴まとめii）

### 【意見交換やヒアリング調査結果から得られた復興に係る特徴のまとめ ii（キーワード）】

<p>組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民との関係性</li><li>・誰でも参加できるようなやわらかなチームング</li><li>・集落単位で地区振興協議会</li><li>・リーダーシップ、危機意識</li><li>・民間の任意団体、民間事業者</li><li>・街づくりまんぼうのまちづくりの部門が復興事業</li><li>・多様な社会課題の担い手との連携</li><li>・地域の防災や安全につながる視点を社会全体で共有</li><li>・地域の課題や在り方を考える場や組織</li></ul>
<p>人材登用力： 適材を登用、世代 交代を良しとする</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・誰でも参加できるようなやわらかなチームング</li><li>・住民のアイデアを実現していくことが重要</li><li>・中学生の提案</li><li>・未来の世代を育てている30代、40代の考えを積極的に聞く。60代以上は一步後ろで控えているからやってみろという思い。</li><li>・他の事業者と共に取組み、地元事業者、行政、専門家が一体となって入り、いろいろな検討</li><li>・次の世代にも支持される暮らしが生まれ出しえるかを追求</li><li>・多様なプレイヤー交錯、多様な人材ごちゃまぜの場</li><li>・地域に深く関わっていく人材の発掘</li><li>・公民連携による人材の発掘</li></ul>

## 5 アンケート調査⑩（復興に係る特徴まとめiii）

### 【意見交換やヒアリング調査結果から得られた復興に係る特徴のまとめiii（キーワード）】

<p>情報共有力： 情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域交流の必要性</li><li>・クラウドファンディングで情報発信</li><li>・取組をモデルに全国へ発信</li><li>・ホスピタリティ</li><li>・若い職員が一人ずつ集落に入り、集落の振興協議会に張り付く</li><li>・組織内外の連携</li><li>・合意形成の過程のオープン化</li><li>・意思決定プロセスが大きい場で行われていた</li><li>・区長が中心となりコミュニティを醸成</li><li>・商店街の方々が自主的に中心部に集まり情報共有</li><li>・ヒヤリハット経験を共有</li><li>・地縁の有無が生死にかかわる</li><li>・コミュニケーションが広がることで防災や防犯などの困りごとの解決につながる</li><li>・コミュニティが街やマンションにあって、必要な場合にアクセスできること</li><li>・顔が見える関係性</li></ul>
<p>受援力： 外部の支援を受け止める、活用する力</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・クラウドファンディングで情報発信</li><li>・NGO等様々な団体からの支援</li><li>・自治体間で意見交換や連携</li><li>・企業研修が近年増えた</li><li>・ゼネコンやUR都市機構、コンサルタントが入り、マスコミや住民等も参加可能なデザイン会議</li><li>・大学の先生などに入っただき検討</li><li>・ターンやUターンで来た人などを活用</li><li>・国土交通省の事務所や石巻市の方と密に連携</li><li>・地元商業者、行政、専門家が一体となって入り、いろいろな検討</li><li>・関係人口の多さと多様性</li><li>・多様なプレイヤーや人材が交錯できる場づくり</li><li>・外部機関の専門家と平時から連絡できる体制の構築</li></ul>

## 5 アンケート調査⑪ (地域住民向けアンケート設問内容)

### 【復興に係る特徴を踏まえた地域住民向けアンケート設問内容】

意思決定力： 物事を決める力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は普段の生活や仕事等で何かしらの判断を迫られた場合、その場に応じた決断ができる自信がある。</li><li>・私には住んでいる地域で課題などがあつた場合、それを自分事として捉え、何らかの形で協力していく考えがある。</li><li>・私の住んでいる地域には、町会内会の役員など、地域リーダー的な存在の人がいる。</li></ul>
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は地域のイベントや自治会などにおいて他の住民の方と一緒に行動する機会がある。</li><li>・私は住んでいる地域の自治体に対して、意見を出したり、提案したことがある。</li><li>・私の住んでいる地域では、自治体から頻繁に情報提供が行われている。</li><li>・私は何かの物事を進める時にその過程を周りに広く知ってもらうなど、周囲の方に理解してもらいながら進めることがある。</li></ul>
組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は地域の集まりでリーダーの役割を担うことができる。</li><li>・私は地域の様々な方とコミュニケーションを取っている。</li><li>・私は防災・安全・まちづくりなどに関して行政や大学、民間事業者などに関わりがある。</li><li>・私の住んでいる地域では、お祭りなどの地域イベントが行われている。</li><li>・私の住んでいる地域では、公民館やコミュニティセンターで、定期的な集会(講習会、カルチャースクールなど)が行われている。</li></ul>
人材登用力： 適材を登用、世代 交代を良しとする	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は地域をよくするためには、住民のアイデアを募り、実現していくことが重要だと考えている。</li><li>・私は子どもたちや若い世代の提案を取り入れることが、地域を良くしていくために重要と考えている。</li><li>・私は地域をよくするためには、企業や行政、専門家などが一体となって取り組むことが重要だと考えている。</li><li>・私は地域をよくするためには、多様な人材(様々な世代や職種の人)が関わるのが重要だと考えている。</li><li>・私は地域をよくするためには、公共機関と民間事業者が連携し、時には深くかかわっていく民間人材の発掘が重要だと考えている。</li></ul>
情報共有力： 情報伝達、日常ミュ ニケーションの濃密さ	<ul style="list-style-type: none"><li>・私には、住んでいる地域のことなら何でも知っている知人がいる。</li><li>・私には、何か困ったことや不満があつたときに、相談できる自治体職員や政治家など、相談する相手がいる。または、地域に相談しやすい雰囲気がある。</li></ul>
受援力： 外部の支援を受け 止める、活用する力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は、困った時、遠慮せずに連絡を取れる人がいる。</li><li>・私には、災害に対する知識、経験を持った知り合いがいる。</li><li>・私は、困った時に一方的に助けてもらうだけでなく、助けてくれた人と協力しながら物事を前に進めていくことができる。</li></ul>

## 5 アンケート調査⑫ (自治体職員向けアンケート設問内容案 i :作成中)

### 【自治体職員向けアンケート設問内容案 i ←地域住民向け設問内容を参考に設定】

意思決定力： 物事を決める力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は職場で何かの判断を迫られた場合、的確な決断をできる自信がある。</li><li>・私は業務に係る幅広い知識取得など、判断力の向上に努めている。</li><li>・私は業務に係る重要な判断を迫られたことがある。</li><li>・私は業務上、地域住民や民間事業者等と調整することが頻繁にある</li><li>・私は業務の課題解決には、地域住民や地域団体の協力がある程度必要と考えている。</li><li>・私は業務に従事する際、明確な目標をもって前向きに取り組んでいる。</li></ul>
プロジェクト推進力： 決めたことをやる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は業務上、課題に直面した場合、その課題解決に向けて、他部署や地域団体など他の組織・団体等と連携して自ら積極的に行動できる。【リーダーシップ・推進力】</li><li>・私は業務上、地域組織・住民等とともに地域活動やイベント等を行ったことがある。【交流】</li><li>・私は業務上、地域組織にアドバイス等をしたことがある。【支援】</li><li>・私は業務上、地域組織に頻繁に情報提供を行ったことがある。【頻度】</li><li>・私は業務上、地域組織等と地域活動等に取り組む際、各意見を調整することがある。【調整】</li><li>・私は業務上、何らかの事項を決断しなければならないときに、その検討過程などを多様な団体、組織等に説明し協力し合いながら進めることがある。【波及力】</li></ul>
組織形成力： 必要に応じてチーム ビルディングできる力	<ul style="list-style-type: none"><li>・私は業務上、防災やまちづくりを考える際、地域組織や大学、地元民間企業などに参画を促すことができる。【組織形成】</li><li>・私は地域組織等と協働で行う業務で、リーダーの役割を担うことができる。【リーダーシップ】</li><li>・私は業務上、地域住民とコミュニケーションを取っている。【コミュニケーション】</li><li>・私は、大学や民間企業など様々な団体、組織等と繋がりがあある。【人材・外部支援】</li><li>・私は地域との協働にあたり、地域の実情を踏まえて組織のメンバーや活動の在り方を見直すことができる。【改善】</li></ul>

# 5 アンケート調査<sup>⑬</sup> (自治体職員向けアンケート設問内容案 ii : 作成中)

## 【自治体職員向けアンケート設問内容案 ii ←地域住民向け設問内容を参考に設定】

<p>人材登用力: 適材を登用、世代交代を良しとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は業務上、地域組織と協働する際、多様な住民、団体等が柔軟に参加できるよう工夫をしたことがある。【柔軟性】</li> <li>・私は地域課題を解決するためには、住民のアイデアを募りながら取り組んでいくことが重要だと考えている。【多様性】</li> <li>・私は地域課題を解決するためには、中学生や子どもたちの提案を取り入れることが重要だと考えている。【子ども世代】</li> <li>・私は地域課題を解決するためには、若い世代の考えを積極的に取り入れることが重要だと考えている。【若い世代】</li> <li>・私は地域課題を解決するためには、企業や地域、専門家などが一体となって取り組んでいくことが重要だと考えている。【外部支援】</li> <li>・私は次の世代にも支持されるまちづくりをしていくことが重要だと考えている。【持続可能性】</li> <li>・私は地域課題を解決するためには、地域の多様な人材に参画してもらうことが重要だと考えている。【多様性】</li> <li>・私は地域課題を解決するためには、民間人材と連携しながら取り組んでいくことが重要だと考えている。【人材発掘】</li> </ul>
<p>情報共有力: 情報伝達、日常コミュニケーションの濃密さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は業務上、地域コミュニティ(例:自治会、自主防災組織、地域イベント・活動など)の活動を企画、またはその活動に参加したことがある。【交流】</li> <li>・私は業務上、地域住民や地域団体等に防災やまちづくり等に関する各種情報を伝達したことがある。【情報共有】</li> <li>・私は、地域コミュニティで中心的な役割を持つ人材を知っている。【キーマン】</li> <li>・私は業務上、地域からの相談や意見を受けたことがある。【地域との関係性】</li> <li>・私は、地域コミュニティに相談したり、意見を伺ったりすることができる。【地域意見の吸い上げ】</li> <li>・私は、地域コミュニティや各種団体等など、意見を伺う相手には事欠かない。【人脈】</li> </ul>
<p>受援力: 外部の支援を受け止める、活用する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、災害時、外部団体等に「躊躇ない応援の要請」を行うことができる。【マネジメント・即応性】</li> <li>・私は、災害対応ノウハウ等を持った専門家等との繋がりがある。【人材】</li> <li>・私は、応援者や協力者に対して、実施内容や手順等を的確に伝達し、協力しながら地域課題を解決していくことができる。【受援体制】</li> <li>・私は業務上、地域の自主防災組織や地元民間事業者など、地域の多様な組織・団体等と連携して災害・復旧・復興対応を行うことができる。【連携・ノウハウの共有】</li> </ul>

## 5 アンケート調査⑭

### 【調査対象地域】

これまでのヒアリング調査や有識者・実務者との意見交換で把握した地域のうち、サンプル数が確保できる地域および、大きな被災経験の少ない都心近郊の都市として以下を調査対象地域として設定

- ・さいたま市、倉敷市、石巻市

### 【調査方法】

- ・地域住民向けインターネットモニターアンケート調査

⇒地域活動の参加の有無によりスクリーニングを実施し、参加有の場合本調査実地

※地域活動：自主防災組織、町内会・自治会、PTA、婦人会、子ども会、老人クラブ、消防団、福祉に関する団体、趣味やスポーツの団体、NPO、その他

- ・自治体アンケート(市民向けモニターアンケート対象地域の自治体)

⇒各自治体への依頼文＋調査票をメールで送信し、関係部署から回答を協力要請

### 【地域住民向けアンケート調査項目】

- ・基礎情報：年齢、居住地域(市町村単位)
- ・現居住地域での居住年数
- ・被災の有無(被災有の場合：災害名称、発生年、被害内容)

令和6年11月1日現在

・地域住民アンケート調査 ⇒ 調査実施に向け準備中

・自治体職員アンケート調査 ⇒ プレ調査結果を踏まえ、設問内容再精査中

## 6【参考】地域安全小委員会委員名簿

・委員長	長谷川 潤	さいたま市役所
・幹事長	磯打 千雅子	香川大学ECMS地域強靱化研究センター
・委員	井上 晋一	(株)JR東日本商事
・委員	大和田 勝文	清水建設(株)
・委員	大澤 修一	(株)三菱総合研究所
・委員	大平 真弓	応用地質(株)
・委員	指田 朝久	東京海上ディーアール(株)
・委員	佐藤 英治	いであ(株)
・委員	白木 渡	香川大学
・委員	須藤 英明	ものづくり大学
・委員	須見 徹太郎	(一社)全国地質調査業協会連合会
・委員	高鍋 剛	(株)都市環境研究所
・委員	竹元 貴彦	(株)システム二十一
・委員	濱田 俊介	応用地質(株)
・委員	早川 直喜	札幌市役所
・委員	広兼 道幸	関西大学
・委員	中本 康晴	東日本旅客鉄道(株)
・委員	脇阪 節	国土交通省
・委員	矢内 匠	さいたま市役所
・委員	山口 健太郎	(株)三菱総合研究所
・委員	山中 憲行	前橋工科大学

※令和6年10月現在(順不同 敬称略)

安全問題討論会' 24 委員会報告 資料集

---

発行日:2024 年 12 月 2 日

編集者:公益社団法人 土木学会 安全問題討論会 実行小委員会

委員長 山中憲行

幹事長 高橋亨輔

発行所:公益社団法人 土木学会

〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内

電話 03-3355-3559 FAX03-5379-0125

---

©土木学会 2024